



はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



横浜医療センター



当院正面玄関に飾られた門松

第19号

目次

年頭の挨拶	1
地域医療連携	
病診連携施設紹介	2
病診連携室から	3
地域医療支援病院運営委員会 登録医大会	
新病院建設状況	
お知らせコーナー	
コメディカルからの一口メモ	4
放射線科今昔物語	
シリーズ	
看護部だより/「緩和ケア」を知っていますか?	5
検討会・研究会の開催	
職場紹介 ー 手術室・救命救急センター	6

第61回国立病院総合医学会	第61回国立病院総合医学会盛大に開催される7 学会発表を経験して/看護研究を発表して	8
行事等紹介		
医療安全週間院外講演会		9
クリスマスキャンドルサービス/クリスマスコンサート		
患者数の動向/編集後記		10
外来担当医表		11

発行月：平成20年1月
 発行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：高橋 俊毅
 住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電話：045-851-2621
 FAX：045-851-3902
 URL：<http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>



年頭挨拶 —2008年を迎えて—

病院長 高橋 俊毅

平成20年(2008)年を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

当院は「患者様中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」を基本理念とし、「医療の安全と質」の向上に努めてまいりました。

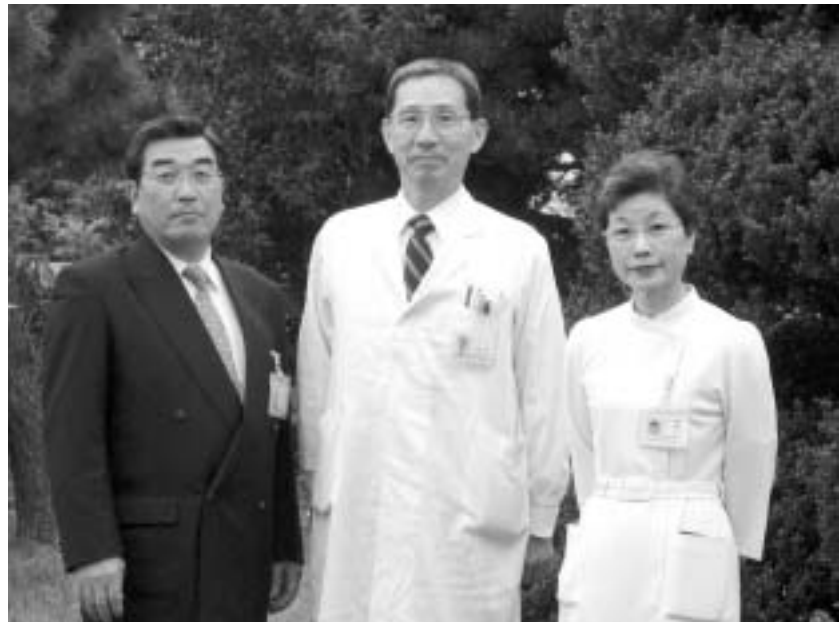
昨年3月には、新病院として開院する平成22年度に横浜市南西部地域中核病院と認定される協定を横浜市長と締結しました。このことは、救命救急センターにおける年間4400台を超える救急車の受入れや横浜市小児救急拠点病院としての実績、そして母児や内科の二次医療などが評価されたものです。9月には逆紹介など地域の医療機関との密な連携により地域医療支援病院の承認も受け、外来は紹介と救急診療や専門外来に重点をおき、入院診療重視型病院を目指しているところです。

本年度から国に代わって自治体が主体となる保健医療計画のもとで4疾患（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）5事業（救急医療、小児医療、周産期医療、災害医療、へき地医療「神奈川県にはなし」）の医療連携ネットワークでの医療提供体制の整備が進められておりますが、これらは戸塚区をはじめ地域の医療機関や介護施設との機能的な連携などが重要で、今後より一層努力をしてまいります。また、予防医学重視時代の幕開けともいえる特定健診制度下では、栄養相談や健診後の精密検査などの連携を充実させ将来の新病院に備えます。

なお、当院はすでにエイズ拠点病院、神奈川県災害医療拠点病院、移植臓器提供病院や臨床研修指定病院であり、今後は地域がん診療連携拠点病院を目指しております。

4月からは「医療の安全と質」をさらに向上させるためにも敷地内を全面禁煙とし、また、看護必要度による看護師の重点配置やリハビリ部門を強化していき「地域で選ばれる病院」を目指してまいります。

新病院の建替えは、本年4月の着工を予定し、平成22年4月には免震構造の7階建て510床の新病院で診療を開始する計画です。新病院では、救命救急センターのさらなる充実、医師12名体制となる小児救急体制やNICUを持つ母子センターの設置、地域の要望に即応する地域医療センターや総合医療センター、内科や外科の垣根のない臓器別センター、さらに乳房や婦人科疾患などの女性病棟などの構想で進めております。



千田事務部長 高橋病院長 糸川看護部長

本年もどうぞよろしく願いいたします。

地域医療連携 病診連携施設紹介

岡部内科医院

診療科目：内科・消化器科・循環器科

当院は戸塚駅東口より「舞岡」行きバスで、「舞岡町入口」バス停から徒歩2分の旧東海道沿いにあります。国道1号線の不動坂交差点、ブリヂストンやダイエーも近くにありますが、通り1つ入る為、静かな環境です。

当院では、胃腸病や肝炎などの消化器疾患や高血圧、糖尿病、高脂血症、痛風などの生活習慣病を中心に内科一般の診療をしております。また健康診断、がん検診、予防注射なども行っております。消化器疾患の検査として上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、



前列右側 岡部 芳勝院長

レントゲン検査なども行っております。特に、上部消化管内視鏡検査には力を入れております。

横浜医療センターは地域中核病院として、救急や入院の場合、高度な検査や治療が必要な場合、専門性が高い時など、常に快く受け入れていただき深く感謝しております。またその結果や経過をご教示いただき有難く思っております。多忙な時間を割いて詳細な返事を用意して下さっていることを思い、いつも感謝の気持ちです。お陰様で、その情報を患者さんに生かし診療することが出来ます。また逆紹介の患者さんやクリティカルパスを通して新しい医療に触れられることや、毎月の消化器病研究会、循環器病研究会、また糖尿病ネットワークなどを通じて、一層連携を深められているのも心強いことです。

当院は、開業して25年になりました。この間、16000人弱の患者さんが来院されました。当地は私の生まれ育った地域であり、幼い頃からお世話になっている方も多くいらっしゃいます。これからも、横浜医療センターを中心とした地域医療の輪の一員として、自分自身を育ててくれた地域の方々に、微力ながら貢献したいと思っております。



岡部内科医院

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町33

TEL 045-824-0358 F A X 045-824-1110

診療時間 月・火・水・金 9:00~12:00 15:00~18:00

土 9:00~12:00 午後休診

休 診 木・日・祭日

第一回地域医療支援病院運営委員会と第二回登録医大会

地域医療連携室長

地域医療支援病院運営委員会副委員長 宇治原 誠

当院は平成19年9月26日に横浜市から地域医療支援病院の承認を受けました。これは、当院が以前より努力してきた、「急性期中核病院として地域の医療に貢献する」ことが当院の果たすべき医療機能として認められたものです。承認を受けた病院は、地域医療支援病院運営委員会というものを開催します。これは、地域で一緒に医療を担う医師会の先生方と行政機関の方々のご意見を定期的に伺い、病院の運営方針の確認を行うもので、当院では第1回目の委員会を12月12日に開催しました。行政からの代表委員として戸塚福祉保健センター長、警察署長及び消防署長、地域の医師会からの代表委員として戸塚区及び旭区医師会長、泉区、西区並びに保土ヶ谷区医師会の副会長、そして横浜市医師会副会長と理事の先生方に運営委員をお引き受けいただき開催しました。なお、委員会の委員長には佐藤卓彌戸塚区医師会長が、副委員長には私が推挙され、任に就くこととなりました。

委員会では、当院のこれまでの地域医療連携や救急医療の取り組みとその実績について、私から説明をいたしました。中でも地域医療機関との連携数（患者様の紹介数・逆紹介数）と救急車の受入数が、ここ4年間でほぼ2倍～3倍に増加していること、そして今年度からは、文字どおり横浜市の小児救急拠点病院として多くの患者様を受け入れていること、さらに地域医療機関からの依頼による画像診断を多数行っていることを申し上げました。このうち特に救急医療については救急搬送件数が増加傾向にあります。より一層の受け入れの協力要請がありました。当院としてもこの貴重な意見を基に工夫を重ね、さらに地域医療に貢献してまいります。

運営委員会の後には、登録医大会を開催しました。この会は昨年度から始めたもので当院に登録（約450名）いただいております地域の先生方をお招きし、当院医師による講演と意見交換を行うという内容のものです。今年は第2回目ということで、この5月に竣工しました当院附属横浜看護学校を会場として開催しました。第一部は横浜市医師会副会長の新海先生にご挨拶をいただき、引き続きの講演として、外科部長兼病棟診療部長の関戸仁医師による「消化器癌に対する外科治療」を演題とし、当院で行われた手術を例にとり地域連携によって外科手術が円滑に行われていることを示しました。その後、私からは、来年度の診療報酬改定により拡大が予想される地域医療連携パスについてのご説明を申し上げました。第二部では、戸塚区医師会長の佐藤先生に乾杯の音頭をとっていただき、懇親会を開催しました。この会はより親交が深められるようにアルコールを少々含んだ立食会の形式としました。会が進むにつれお腹も満たされて、たくさんの先生方と和気あいあいにお話をさせていただきました。地域の先生方と交流させていただける場として、来年も定番として開催したいと思っております。



登録医大会の様子

新病院建築状況

企画課長 竹内 茂男

新病院の設計も着々と進行し、行政機関との関わりも多くなってきております。

特に大きな手続きである新病院建築計画に伴う横浜市市街地環境設計制度について、去る12月21日に審査され、問題なく承認されました。

今後のスケジュールとしては、1月中に建築確認の申請を横浜市に行い、承認をいただければ行政上の手続きがすべて整います。そして新病院建築工事に伴う業者選定を年度明けとなります。

これと平行して、新病院建築工事を着工する前の準備工事として、地中の給排水管やガス管等の切回し工事を進めていきます。工事期間中は、一時的に病院内の通行制限等を行うこととなります。患者様各位並びに近隣住民の皆様方には、大変不便をお掛けすることとなりますが、よろしくご理解並びにご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

お知らせコーナー

放射線科今昔物語

副診療放射線技師長 竹田 和弘

何処の世界も同じと思われそうですが、病院の放射線科も例外ではなく、近代化（コンピュータ化）の波が押し寄せ、その波間を漂っています。

X線写真を撮り、暗室で1枚1枚現像していた頃はもう遙か彼方、昔の話になってしまいました。その頃を懐かしく思い出す人でさえ定年退職してしまって、すでに現場にはおりません。

次に機械化の波が押し寄せ、省力化が進み始めました。明るい部屋でフィルムセットが出来るようになった時は感涙でした。暗室からの開放です。暗室=くらいイメージ=技師 ですね。

そして第3段階は、“コンピュータ時代の幕開け”CTの登場です。最初は頭の断面1断面撮像するのに3分ほど要しておりました。今では1断面に要する時間は1秒程度で、身体全体を数十秒で撮影することさえあります（CTは、大学病院から導入され一般病院に普及されるのに、たいした時間は要しなかったとも思われます。）。

MRI（磁気を使用した検査）しかり、超音波検査しかり、医療の世界も“コンピュータの殿堂”と化してきています。まさに、『デジタルの世界』そのものです。

X線フィルム、レントゲン写真が医療現場から無くなる日も、そう遠い日のことではありません。その代わりに、ひたすら目薬片手に“モニターとにらめっこ”という日々が待っています。



看護部だより

「緩和ケア」を知っていますか？

西5階病棟 副看護師長
がん性疼痛看護認定看護師 村方 幸

皆さんは、「緩和ケア」というとどのようなイメージを持っていますか。緩和ケアとは、もう治療がなくなった最後のケアだと思いませんか？緩和ケアとは、がんと診断を受けたときから始まるケアです。がんの治療を進めていく中で、様々な痛みや不安、悩みなどがでてきます。その様々な出来事を乗り越えていけるように、患者様や家族を中心に主治医とともにがんの専門的な知識を持って支えていくことを緩和ケアと言います。

横浜医療センターでは、8月に緩和ケアチームができました。患者様を多方面から支えられるように、緩和ケアを行う専門医（麻酔科医）だけでなく、精神科医、内科医、外科医、薬剤師、看護師、事務が協力し合っています。緩和ケアチームで初めて関わった患者様は、腹部の張りが強いいため、横になることができずに1日中座位で過ごしていました。食事もほとんど食べることができず、今回は退院が難しいと患者様は覚悟されていました。主治医から相談を受けて、緩和ケアチームは痛みの原因を考え、痛みを感じる神経を薬で遮断しました。その後、患者様の腹部の張り感は緩和されて、数年ぶりにベッドに横になり眠ることができました。食事も少しずつですができるようになり、患者様自身が家に帰れるという自信が持て、退院されました。

痛みや不安は、寝る、食べる、動くなどの普段の生活を阻害するだけでなく、楽しみや喜びなどの気持ちにも大きく影響します。そして、痛みを我慢している状態が長くなると、仕事などの社会的な活動にも問題がでてきます。私たち緩和ケアチームは、患者様とじっくりと向き合い、薬や放射線など患者様に合った最善の方法を使って、体だけでなく心の痛みも緩和します。

痛みを我慢する必要はありません。緩和ケアチームは毎週月曜日に入院中の患者様を訪問しています。相談がある場合は、主治医や担当看護師、薬剤師に声をかけてください。がんと戦い、がんと共に生きる患者様が、どんなときでも自分らしく過ごせるよう、みんなで一緒にがんばっていきたいと思っています。



筆者

横浜医療センター病例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科部長

045-851-2621（代）

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第2月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松臨床研究部長・松島消化器科部長

045-851-2621（代）

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい

職 場 紹 介

●今回は手術室/
救命救急センターの
紹介です。

手術室 ～手術顕微鏡システム～

脳神経外科部長 市川 輝夫

11月、脳神経外科に2台目の手術用顕微鏡が入りました。当科は全国有数の手術症例数を誇っています。昨年は開頭手術が216例（うち脳腫瘍105例、脳動脈瘤92例）ありました。今年はさらに増加しています。これらの手術を天井懸架式のZeiss顕微鏡1台で行っていましたが、ほぼ限界に達し2台目の顕微鏡の導入となりました。

2台目の顕微鏡はZeiss社製の床置き(移動式)最新機種OPMI Pentroで、これに超小型(3×3.5×4cm)ハイビジョンビデオカメラを搭載したものです。この顕微鏡は操作性や術野の視認性が非常に優れているばかりでなく、現在あるニューロナビゲーションシステムや神経内視鏡との接続が可能です。2台目が入ったことにより、2例同時の顕微鏡下手術が可能となり、さらなる手術症例の増加に対応できるようになりました。



手術中の様子

救命救急センター

看護師長 山下 恭子

救命救急センターは、病床数30床のうちICU(集中治療室)4床を有し、24時間体制で救急患者様の対応に備えています。

夜間は、産婦人科・小児科を除いた全診療科の救急の患者様を受け入れています。一ヶ月に約130人の入院があり、おもに脳血管疾患や心臓循環器疾患、交通事故などによる外傷、薬物中毒などで80%を占めています。ICUではその他に、大手術の術後管理を行っており、急性期治療を担う横浜医療センターの中核的存在になっています。

看護職員は一般病棟の2倍近い48名のスタッフが働いています。救命救急センターと救急外来の業務があり、常に緊張を強いられる職場です。新人スタッフからベテランまで多様なメンバーですが、突然の発症や怪我で入院される患者様に、少しでも安心していただけるよう、協力して看護にあたっています。そしてより良い看護ケアの実践ができるよう、日ごろから自己研鑽にも励んでいます。

現在研修受講中の救急看護専門の認定看護師が平成20年4月には誕生する予定です。スタッフ一同、これからも安心・安全・安楽なケアを目指し救急医療に尽くしてまいります。



中央が筆者

第61回国立病院総合医学会

第61回国立病院総合医学会盛大に開催される 副看護部長 山本 まち子



掲示されたポスターの前で

平成19年11月16・17日の両日、第61回国立病院総合医学会が名古屋国際会議場で開催されました。参加者は約4800名、演題数は700題余りに及び、政策医療に関する講演会をはじめ経営管理、人材育成、医療安全に関する講演やシンポジウムが行われ、国立病院機構の職員として取り組むべき事項が示唆されました。当院からは医師、看護部、薬剤科、診療放射線科、臨床研究検査科、事務部から計19題を発表し、フロアの参加者と活発にディスカッションができました。

学会で得た知識を現場に活かすと共に、更に研究等にはげみ、医療の質向上に向けていきたいと思えます。

国立病院総合医学会に参加して

診療放射線技師 椎名 裕子



筆者

去る11月16,17日の2日間にわたり名古屋国際会議場において第61回国立病院総合医学会が開催されました。この学会は全国の国立病院機構、ナショナルセンターに所属する全職種の職員が一同に会して発表を行う場であり、私は今回初めて参加しました。全国から集まるのみならず全職種が参加するというので、多種多様な研究発表が行われていました。

今回私は治験管理室と放射線科の連携について研究を行い、結果として放射線科

の必要な情報と治験管理室が依頼したい内容、両方を織り混ぜた依頼用紙の作成に至ったのですが、他施設においてもいかに治験を浸透させ、連携をとっていかなどが検討されており、各施設の情報を知る非常によい機会となりました。

また、日頃聞けない他職種の研究発表は興味深く、他施設とのよい情報交換の場となり、非常に有意義な学会でした。

【演題（ポスターセッション）：治験管理室と他部門の連携を考える】

第61回国立病院総合医学会

初めての学会発表を経験して

臨床検査技師 角谷 奈帆子

学会当日を向かえ、緊張でガチガチになりながら会場に向かうと、人の多さにまず圧倒され、発表のために何ヶ月も前から準備してきた事、心配してくれている先輩方の事を思い更に緊張。何とか緊張を抑えいざ本番。渾身の力を込め、できる限りの大きな声で原稿を読み切り、想定外の質問も何とか乗り切って、初めての発表は無事に終わりました。

今、改めて振り返り、やりきった達成感と手取り足取り『学会のいろは』を教えてくださいました先輩方への感謝をかみしめています。

大変良い経験をさせていただき、とても勉強になりました。今後の検査や研究に活かしていきたいと思います。

【演題（ポスターセッション）：低濃度域Dダイマー測定キットの検討】



筆者

第61回国立病院総合医学会で看護研究を発表して

西4階病棟看護師 玉谷 澄佳



筆者

私は、「NSTチームとの連携により自力経口摂取ができた事例」のテーマで、初めて国立病院総合医学会で看護研究を発表しました。発表後、フロアーから「顔面マッサージにどのくらいの時間をかけてしているか」について質問されました。発表の経験は、患者さんに実施した顔面マッサージ、口腔ケアなどの看護行為は看護にとっても大切であることが実感でき、評価されたことで自信に繋がり、今後の看護に活かしていきたいと感じました。

学会会場の名古屋国際会議場には、大勢の参加者で驚きと不安と緊張で一杯になりました。様々な職種の方が違ったテーマで研究発表しており、各々が病院の反映に貢献しているのだと感じました。また、シンポジウムやランチョンセミナーで参考になったのは、メタボリックシンドロームについての講演でした。保健指導や運動療法、教育指導についてはすでに注目されて

いますが、患者さんが、どのくらい意欲があるかを評価して教育指導する方法は参考になり、今後、患者指導に役立てたいと思いました。

【演題（ポスターセッション）：NSTチームとの連携により自力経口摂取ができた事例】

行事等紹介

作家「宮子あずさ」さんを講師にお招きして

医療安全管理係長 小林 洋子

毎年11月25日を挟む1週間は医療安全週間です。

平成19年度は東京厚生年金病院の看護師長であるとともに、作家としてもご活躍中の宮子あずささんを講師にお招きし、講演会を開催しました。宮子さんは「ほんわか修士生活」「ナースな毎日」「看護婦泣き笑いの話し」等々、沢山の著書が出版されています。その多くが看護師としての、日々の出来事や患者さんとのエピソードなど、心温まる内容で綴られています。今回の講演は、患者さんからの暴言・暴力に遭遇する機会の多い私達が、どのように自分自身をケアすべきか、というお話でした。最近、患者さんからの暴言・暴力といったものがマスコミに注目されて来ましたが、当院でもそうした被害が残念ながら増えています。悪意あるものばかりではなく、中には病気が影響して現れる症状や、認知症を合併している場合など、患者さん側にも様々な要因があります。これまで私達医療者は「患者さんだから・・・病気だから仕方ない」と自分に言い聞かせ、被害者である辛さを封印してきたように思います。しかし宮子さんの講演を受け、私達医療職者も傷付いた心のケアを必要としているという事に気付かされました。まずは医療する私達が身体も心も健康でなければ良い医療に結び付ける事は出来ないということです。そして自分の感情と向き合い、心の痛みや辛さを誰かにきちんと聞いてもらう事が必要であるという事を教えて頂きました。宮子さんご自身の経験を交えながらの講演となり、当日は県内の国立病院機構の施設数カ所から職員17名を含めて合計111名が参加、テーマへの関心の高さが伺えました。今後は被害にあった職員の心のケアを行ないつつ、患者さんも医療者にとっても安全で安心な環境作りが出来ればと思います。



クリスマスコンサート

医療サービス推進委員会委員 職員係長 高山 敦

一昨年、初めての開催で好評をいただきました院内クリスマスコンサートですが、皆様のご支援・ご協力を賜り、12月25日に第二回を開催することが出来ました。

今回は、学生の方々に構成された慈恵会医科大学管弦楽団の皆さんにご出演いただけることとなり、第一部で管弦楽の演奏会、そして第二部として、院内随一の手品師であり様々なイベントでその腕を披露している副ボイラー技師長和田さんのマジックショーという二部構成での開催となりました。慈恵会医科大学管弦楽団の皆さんは、日頃練習されている演奏の技術もさることながら、メンバー同士が非常に仲良く纏まりがあり、暖かみのある演奏をご披露してくださいました。また、マジックショーは、観客の少年や管弦楽団のメンバーを交えたり、高橋院長の飛び入り参加があったりとユーモア溢れるショーとなりました。コンサートの最後は、観客の皆さんも参加し、「きよしこの夜」を合唱しての締めくくりとなりました。



院内クリスマスコンサートは今回でまだ二回目ですが、年の瀬を病院で過ごさなければならない入院患者の皆様に楽しんでいただける会として、今後も続けていきたいと思っております。

キャンドルサービス

横浜看護学校教員 吉田 亜希子

クリスマスより一足早い12月20日の夕方、横浜医療センター附属横浜看護学校の看護学生1～3年生がキャンドルをもって、病棟へ伺いました。いつも、実習でお世話になっている患者様に日頃の感謝の意味を込め、心和むひと時を過ごしてもらいたいと思い「あわてんぼうのサンタクロース」、「星に願いを」のクリスマスソングを2曲ご披露し、学生手作りのフェルト生地で作ったクリスマスツリーとカードを患者様お一人ずつにお配りしました。

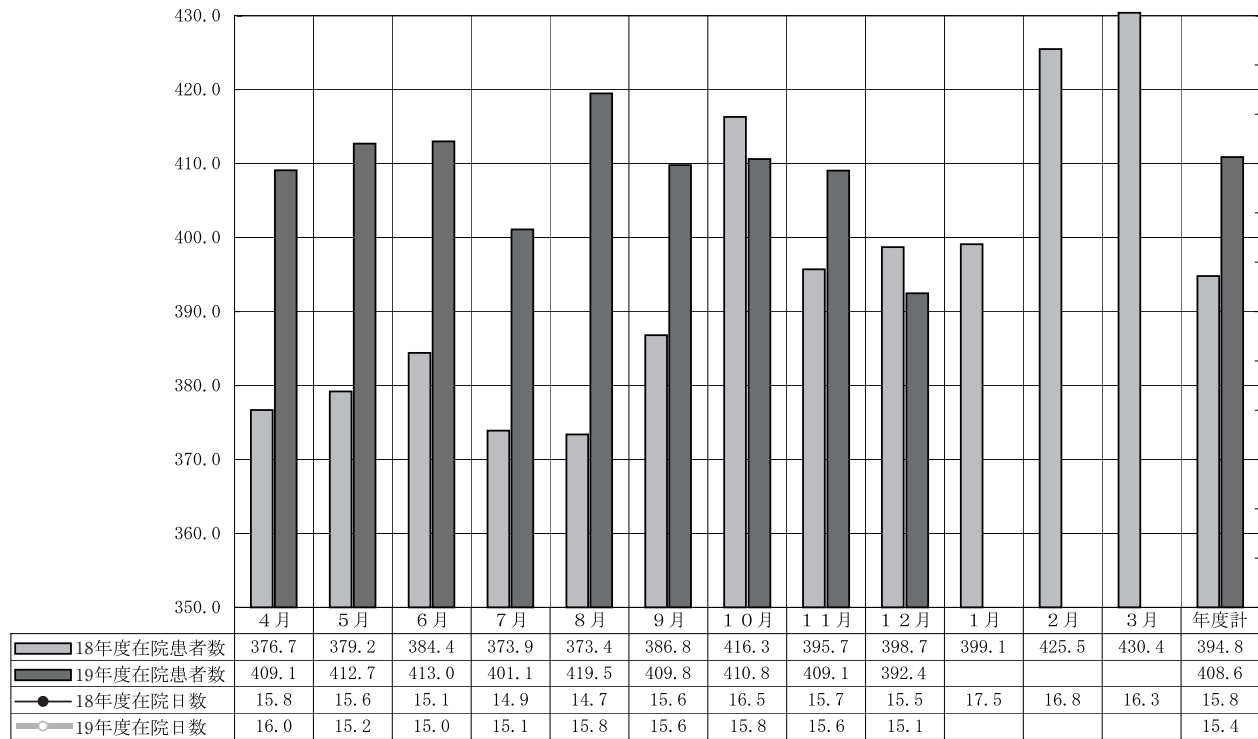


☆看護学生のコメント☆

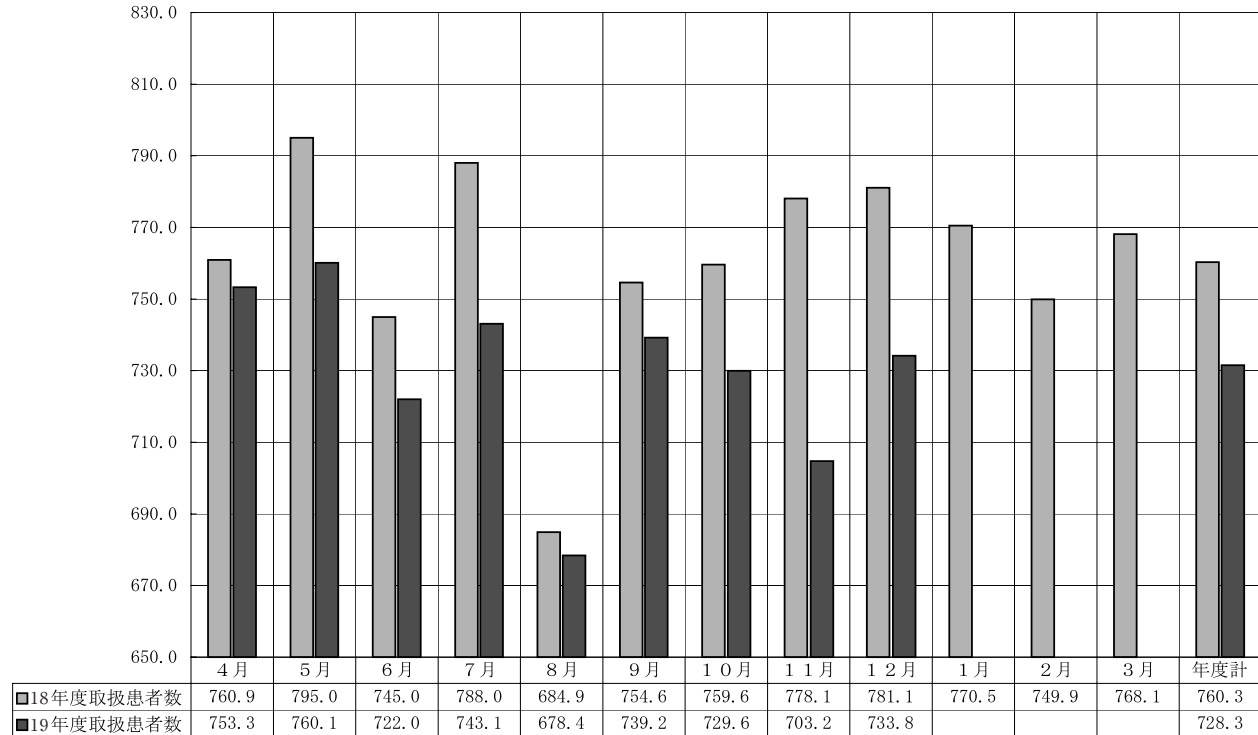
- ★「患者様がプレゼントをよるこんでくださり、とても嬉しかったです。」
- ★「患者様に『ありがとう』と言ってもらえて、ツリーを頑張って作成した甲斐がありました。病棟に行く前は寒かったが、帰りは心がポカポカでした(*^_^*) 患者様の笑顔が見られてよかったです。」
- ★「プレゼントを渡した時も、どの患者様もすごく喜んでくれて、私の方が元気をもらいました。」
看護学生も、患者様から元気や暖かい心をいただき、素敵な時間を持つことができたと思います。

患者数の動向 ～1日平均～

入院患者数年度別月別比較 (H19年12月31日現在)



外来患者数年度別月別患者数 (H19年12月31日現在)



編集後記

昨年は当院の地域医療への取り組みが実を結び、横浜市南西部における地域中核病院に位置付けられ、更に地域医療支援病院の承認を受けることができました。また患者数や収支状況も一昨年に比べ良い傾向にあり、昨年の仕事始め式で片目を入れたダルマには無事、もう片方の眼が入りました。

今年はいよいよ新病院建築の工事がはじまります。その工程を目の当たりにすれば新病院の姿が容易に想像できるでしょう、今から着工の日が楽しみです。院内でも新病院に向け準備が始まり慌ただしくなりますが、大願成就するよう職員一丸となって頑張らしましょう。

庶務班長 鈴木 美智子



診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
内科	総合内科	川原 智子	松浦 宏之	関口 章子	曾我 隆義	△:午後1:00~2:00(受付時間)紹介状持参の方のみ	
	糖尿病内分泌内科	高木 佐知子	今井 えりか	須澤 直木	宇治原 誠(予約のみ)	注 宇治原 誠(予約のみ)	
	神経内科	土井 宏	△高橋 竜哉	検査日	遠藤 雅直	検査日	
	呼吸器内科	椿原 基史	検査日	山川 泰	検査日	椿原 基史	
	消化器内科	交代医師	交代医師	松島 昭三	神津 知永	小松 達司	
	循環器科	巽 藤緒	岩出 和徳	田中 直秀	▲田中 直秀	岩出 和徳	
リウマチ・アレルギー科	加藤 丈二	ベースメーカー外来	検査日	検査日	■曾我 隆義 ■関口 章子		
心療内科	検査日	成田 謙田	武川 吉和	検査日	検査日	完全予約制(要紹介状)で午後のみ<火曜日>奇数週(一般心身症)成田・偶数日(女性心身症)鎌田<水曜日>(一般・小児心身症)武川	
精神科	山口 隆之	武川 吉和	山口 隆之	成田 博之 鎌田 鮎子	武川 吉和	※月～金:新患受付は10時まで受付けます。(要紹介状、1日2名の予約制)但し、当該医師以外の医師が診察いたします。詳細は精神科外来にお尋ねください。	
小児科	鈴木 陽一	菅井 和子	鈴木 陽一	小林 慈典	鈴木 陽一	注①第2、3週榎本	
	西山 綾	神山 明美 注②	菅井 和子	大山 宜孝	小郷 寛史 注①	注②第3、4週和田 注③第3週小林	
外科	清水 哲也	関戸 仁	松田 悟郎		◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◆:完全予約制	
	交代医師						
乳腺外科		◎土井 卓子 ◎田辺 美樹子		◎土井 卓子 ◎田辺 美樹子		◎:乳腺外来(火・木)完全予約制	
呼吸器外科					坂本 和裕 山仲 一輝	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、直接ご連絡ください。	
整形外科	国府 秀俊	日塔 寛昇	国府 秀俊	日塔 寛昇	日塔 寛昇	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30~10:00	
形成外科	高瀬 税	高瀬 税	高瀬 税	高瀬 税	高瀬 税	□:手術日のため午前のみ	
脳神経外科	急患のみ (手術日)	岡田 富 ※(脳ドック)	竹本 安範 ※(脳ドック)	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫	※詳細はPM1:00~5:00の間に地域医療連携室までお問い合わせください	
心臓血管外科	益子原 幸宏	手術日	東館 雅文	東館 雅文	東館 雅文	木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)	
皮膚科	坪井 廣美	山本 都美	坪井 廣美	坪井 廣美	坪井 廣美		
	山本 都美	百瀬 葉子	山本 都美	百瀬 葉子	山本 都美		
泌尿器科	本田 直康	本田 直康	手術日	奥野 紀彦	本田 直康		
産婦人科	中村 秋彦	窪田 与志	窪田 与志	乘杉 輝彦	中村 秋彦		
	窪田 与志	斎藤 要	中村 秋彦	中村 秋彦	松本 光代		
眼科	清水 康平	手術日	清水 康平	清水 康平	岡部 智子	(受付)初診・予約外再診とも 月・水・木曜日 8:30~10:00 火曜日は新患(要紹介状)・急患のみとなります。8:30~9:30	
耳鼻咽喉科	深澤 雅彦	向出 光博	杉山 裕	小宅 大輔	休診	(受付)初診・予約外再診とも 月~木8:30~10:00まで	
放射線科		中山 優子 ※注①			中山 優子 ※注②	※注①火曜日9:00~11:00【完全予約制】→15日から13:30~15:30 ※注②金曜日13:30~15:30【予約は内線4307まで】【完全予約】	
歯科口腔外科	塩入 重彰 (再診のみ)	塩入 / 大槻 (午前初診・午後再診)	手術日	塩入 / 大槻 (午前初診・午後再診)	塩入重彰(再診のみ) 大槻伸江(再診のみ)	初診は、火・木曜日8:30~10:00。初診急患は随時受付(紹介状から直接連絡ください)。再診は完全予約制。再診急患は電話をお願いします。 初診:可能な限り、紹介状又は診療情報提供書を持参して下さい 詳細については歯科口腔外科部長にお問い合わせください。	
専門外来(午後のみ)	小児	喘息(鈴木・菅井)	腎(伊藤)※第1週	喘息(石田) 第2・4週	乳児検診 (交代医師)	循環器(鈴木) ※第3以外 予防接種(交代医師)	
		アレルギー検査 (交代医師)	喘息(鈴木)	喘息(菅井)			
		フォローアップ外来(福山)第4週	感染免疫(小林) 第2・4週	アレルギー検査 (交代医師)	フォローアップ外来(小郷)	神経(武下)※第3のみ	
		フォローアップ外来(小林)第3週					
	外科	横浜市乳がん検診 ※注④	癌化学療法外来	癌化学療法外来	癌化学療法外来		※注④横浜市乳がん検診の受付:14:00~16:00乳癌検診
	女性診療外来	※注⑤		スキンケア外来 ※第2・4週			※注⑤担当医:〔外科土井・皮膚科坪井〕女性のための総合診療をめざす外来です。産婦人科受診希望の方は直接産婦人科外来を受診してください。女性外来では内診などは行っておりません。乳癌疾患は火・木曜日の乳腺外来で女性医師が対応します。全人的に対応し、必要があれば心療内科を含め複数科の女性医師が連携します。
	スポーツ整形外科		※注⑥				
産婦	母親教室	助産師外来 ※注⑥第2・4週 母乳外来				※注⑥担当医:〔国府・小椋〕 毎週15:00~16:00	
循環		ベースメーカー外来 ※注⑦				※注⑦ 第1・3・5週〔加藤〕 第2週〔巽〕 ※注⑧7月より開設	

初診 受付: 平日 8:30~10:00
再診 (予約外) 受付: 平日 8:30~10:00
休診 日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。
又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

